

キャラクター名
近藤 蒼維

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン ウロボロス		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	17歳	性別	男
覚醒	渴望	衝動	嫌悪	初期侵食率	38%	
出自	父親不在	経験	虚構(LMより中学生経験表)	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	2	0	0			2	行動値	13
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	13
精神	3	1	3	2		9	戦闘移動	18
社会	1	0	0			1	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:オカルト	3		情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
紫電・壱式	RC	10r+2		12		単体攻撃。命中した場合、ラウンド間対象のダイス-Lv個。
白雷・災厄	RC	10r+2		15		シーン攻撃。命中した場合、ラウンド間対象のダイス-Lv個。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
誓約の瞳	
コネ:要人への貸し	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス消費
Dロイス:傍らに立つ影P		N	
Dロイス:遺産継承者:誓約の瞳P		N	
“シルクスパイダー”玉野 椿P	感服	N 隔意	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 4 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
雷の槍	3	3	Xジャー	視界		対決		
効果:	攻撃力+[Lv×2+2]の射撃攻撃。							
飢えし影	2	1	Xジャー	視界		対決		
効果:	攻撃力+[Lv+2]の射撃攻撃。							
サイレンの魔女	1	5	Xジャー	視界	シーン(選択)	対決		
効果:	攻撃力+[Lv×3]の射撃攻撃。							
原初の赤:茨の輪	1	3	Xジャー	視界		対決		
効果:	対象の判定のダイス-Lv個。							
原初の青:光芒の疾走	1	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	戦闘移動を行う。							
イージーフェイカー:完全演技	★		Xジャー	至近	自身	自動		
効果:	完璧な演技を行う。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「最初から決着は着いている、全部筋書き通りだ」

日本全国で活動する少年エージェント。目は切れ長で冷たく、左目の中心が完全な漆黑に染まっている。短い髪も同様に黒い。しかしながら、そこそこの美形で、一般人に成り済ました潜入任務などでは演技力も相俟って、主に女性ウケが良い。粗暴な口調とは裏腹に意外な頭脳派で、いつでも冷静に行動する。冷徹にも見える彼の行動に理由が無いことは滅多に無いのだが、本人がネタバラシするまで気付かれないのが常。そのため、UGN内でも誤解を持っている人間は多数いる。また、過去のいじめの記憶から同じような被害にあっていない者に対しては比較的優しいとされ、本当の意味で自分が達成できなかった「乗り越える」ことを論じたりしている。なお、潜入任務時には打って変わって穏やかな口調と優しい笑みで噂好きの女の子のハートヲガッシリ掴んで根こそぎ情報をもぎ取る鬼畜である。

中学2年の頃までいじめにあっており、中学校に入学した辺りから心を閉ざし、殻に籠もるようになった。嘘の自分を演じ続けるも、エスカレートしていくいじめの中、復讐を願うようになり、覚醒。願望を叶え得る力を手に入れたが、無計画な殺人は無意味であると言いついて実行に移さなかった。

しかし、その聡明さ故に自分の持つ力の恐ろしさに気づき、日常との完全な決別を決意。実際に決別するまでの準備段階でレネゲイドによる自己再生能力を確かめた彼は、ある日計画を実行に移す。下校途中に自分をいじめていた集団に敵えて近づき、言葉でそれとなく刺激していく。激昂したいじめグループが怒りに任せて彼を車道に突き飛ばすと、目論見通りに彼は大型車に轢かれることとなった。そこまで全て彼の策に乗せられているとも知らず、自分達がやったと思ひ込んだグループはその場から逃走。その時には既に近藤の姿は現場に無かった。警察には不慮の事故として扱われ、当然家族にもそのように説明された。

以来、各地の山奥などの人が寄り付かないところを転々とし、時折人里に下りては便利屋のような仕事で最低限の生活費を稼いでいた。